



Washington D.C. Political and Economic Report

Masaharu Takenaka 竹中 正治

ワシントン駐在員事務所 所長

(202)463-0477, mtakenaka@us.mufg.jp

2006年9月22日

ワシントン情報 (2006 / No.060)

巻き返す共和党、民主党の下院多数派奪還は微妙 ～米国連邦議会中間選挙、予備選挙ほぼ終了時点の見通し～

11月7日投票の連邦議会中間選挙まで1ヵ月半となり、今年春以来全米各州での議会予備選挙（各党を代表する候補者を選ぶための選挙）も終盤となった。前回（8月16日053号、「高まる民主党多数派奪還の可能性」）では、マクロ的選挙動向は4月の時点よりも民主党の議席逆転、多数派奪還の可能性が高まったことについて報告した。今回は、予備選挙がほぼ終了し、立候補者が出揃ってきたことこともあり、選挙区ごとのミクロ的状況を踏まえた選挙予想を含めて報告する。

【支持率を若干回復した大統領と共和党】

共和党議員にとっての最大の弱点は Bush 大統領の不人気である。しかし昨年秋に35%程度まで墜落した Bush 大統領の支持率は、今年夏にかけて若干回復、9月に入ってから大統領支持率は若干の回復を見せている（表1）。この背景には最近のガソリン価格の下落、9・11の5周年効果が指摘されている。特に8月10日に英国で9・11型の大規模テロ再現を狙ったテロ容疑者が一斉逮捕されたことを捜査当局の国際協力の成果として誇示すると同時に、テロの危険が消えていないことを強調し、9・11の各種イベントや大統領演説につなげた Bush 政権と共和党の巻き返しキャンペーンが一定の効果を上げたと思われる。

（表1）大統領支持率

世論調査実施日	7月下旬～8月初旬		9月初旬～中旬		支持率回復幅
	支持する	不支持	支持する	不支持	
LA Times/Bloomberg	40%	58%	45%	52%	5ポイント
CBS/New York Times	36%	55%	37%	56%	1ポイント
USA Today/Gallup	40%	56%	44%	51%	4ポイント
Ap-Ipsos	33%	64%	39%	60%	6ポイント
NBC/Wall Street Journal	39%	56%	42%	53%	3ポイント
ABC/Washington Post	40%	58%	42%	55%	2ポイント

大統領の支持率の回復と共に、共和党への支持率も先月に比べて幾分回復を見せた。表2は9月に入って各社が行った世論調査で、「現時点で下院選挙が実施されたとすれば、どの党の候補に投票するか」という問いに対して「共和党」と答えた人と「民主党」と答えた人の

割合を示したものである。先月行われた世論調査では、同じ質問に対して「民主党に投票する」と回答した人の割合は、「共和党に投票する」と答えた人の割合より12~18ポイントリードしていた。それに対して今月の世論調査では、その差は0~12ポイントと、民主党のリードが幾分縮まった。

(表2) 問い「今選挙があれば、中間選挙でどの党の候補者に投票するか？」(9月初旬)

世論調査	共和党	民主党	未定	民主党リード幅
USA Today/Gallup	48%	48%	4%	0ポイント
FOX/Opinion Dynamics	38%	41%	21%	3ポイント
Gallup	41%	53%	7%	12ポイント
Pew	39%	50%	11%	11ポイント
ABC	42%	50%	7%	8ポイント

【予備選挙から見えてきたミクロ的状況】

9月12日はメリーランド、ミネソタ、ニューヨーク、ロードアイランド州などが、18日にはマサチューセッツ州他が予備選挙を実施し、ハワイ、ルイジアナ州などを除いては各州の予備選挙はほぼ完了した。ニューヨーク州では Hilary Clinton 民主党上院議員（現職）が大勝、ロードアイランド州でも共和党現職の Lincoln Chafee 上院議員が党の指名を獲得した。結果的に予備選挙では、各党がそれぞれの州で議席を維持するのにベストの候補者を指名することに成功したと選挙分析専門家は見ている。言い換えれば、各党の選挙運営の視点から見て「波乱」の少ない布陣に落ち着いたと言える。

【民主党の議席増は確実視されているが、多数派奪回の可能性は微妙さを残す】

今年の中選挙で民主党が多数派を奪回するためには、下院で15議席、上院で6議席獲得する必要がある。共和党が上下両院で議席を失うのはほぼ確実されているが、その喪失議席数については予測は分かれている。当地ワシントンで選挙分析専門家として定評のある Charlie Cook 氏は、共和党敗北の規模を以下の4通りのシナリオに分けた。

- 「小敗北」 (下院議席一桁台、上院1-2議席の喪失、両院で民主党の逆転ならず)
- 「中敗北」 (下院10-14議席、上院3-5議席の喪失、両院で民主党の逆転ならず)
- 「大敗北」 (下院15-20議席、上院6議席の喪失、両院で民主党が議席数逆転)
- 「特大敗北」 (下院20議席以上、上院7-8議席の喪失、両院で民主党が議席数逆転)

同氏は7月末の時点で、当時の世論調査や個別の選挙区を考慮した上で、共和党の敗北規模予想は「中」と「大」の間にあると分析していた。

また、アイオワ大学ビジネススクールの運営する「予測市場」Iowa Electronic Markets

(IEO)は8月時点で、共和党が引き続き下院で多数派を維持する可能性を34.5%、上院で多数派を維持する可能性を67%と予想していた。しかし最近のIEOの予想では、共和党が下院で多数派を維持する可能性は43%と9.5ポイント上昇、上院を支配する可能性は73%と6ポイント上昇した。同じく予測市場のIntradeは8月時点で、共和党が下院で多数派を維持す



る可能性を 45%、同じく上院での可能性を 83%と見ていた。しかし現時点では前者は 52%と 7 ポイント上昇、後者は 84.5%と 1.5 ポイント上昇している。すなわち、民主党が下院多数派を奪回する可能性は五分五分、上院は共和党による多数派維持というのが現時点の概ねのコンセンサス予測である。

上述のように、民主党は下院で最大 15 議席前後獲得する見込みである。Cook 氏の選挙予想によると、下院で共和党が現職の議席のうち、勝利の確率が「五分五分」の接戦議席は 19 議席、敗北の可能性のある議席は 1 議席であり、合計で「危うい」議席が 20 議席のある。これに対し、民主党議席で共和党に奪回されてしまう可能性のある議席はゼロになっており、依然として民主党にかなり有利な展開と見ている。

また上院選挙では、現在の議席は民主党が 44 議席、共和党が 55 議席で、上述のように民主党が多数派を奪回するには 6 議席獲得が必要である。今回の選挙では現職民主党の 18 議席、現職共和党の 15 議席の合計 33 議席が選挙にかけられる。そのうち再選が危ぶまれている議席の数は、以下の通り共和党が 6 議席、民主党は 1 議席である。従って民主党の議席増加の可能性は極めて高いが、6 議席獲得する可能性は低いと予想されている。

< 共和党上院現職の接戦議席 >

Jim Talent 議員 (モンタ)
Conrad Burns 議員 (モンタ)
Mike DeWine 議員 (オハイオ)
Rick Santorum 議員 (ペンシルベニア)
Lincoln Chafee 議員 (ロードアイランド)
Bill Frist 院内総務 (テネシー)

< 民主党上院現職の接戦議席 >

Robert Menendez 議員 (ニュージャージー)

【 自党支持層の投票率が結果を左右する 】

以上の通り、民主党の下院での多数派奪還の可能性は、現状の概ね五分五分という微妙な情勢であり、両党は接戦地区での自党支持層の投票率を最大限引き上げるため、“Get out the vote” (GOTV) キャンペーンに懸命である。残り 1 ヶ月半の同キャンペーンの成果次第で結果は、「民主党の下院多数派奪還」にも「共和党の多数派維持」にも分かれ得る接戦状態と言ふべきだろう。

(担当：松村詩子)

(e-mail address : umatsumura@us.mufg.jp)

以下の当行ホームページで過去20件のレポートがご覧になれます。

<https://reports.us.bk.mufg.jp /portal/site/menuitem.bd427fa51df4c80526345b1035ca16a0/>

Washington 本レポートは信頼できると思われる情報に基づいて作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。意見、判断の記述は現時点における当駐在所長の見解に基づくものです。本レポートの提供する情報の利用に関しては、利用者の責任においてご判断願います。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は、出所をご明記ください。

本レポートのE-mailによる直接の配信ご希望の場合は、当駐在所長、あるいは担当者にご連絡ください。